尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.11

cover photo : Makoto KATOH

- message ： 近藤 国嗣 JADC 会長
- information ： 新たな研修会のカタチとスケジュール
- condolences : JADC の礎石。若月健一氏を悼む。
- report ： COVID-19 の対応

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

この難局を皆様とともに乗り越えて。

JADC 会長
東京湾岸リハビリテーション病院 院長 近藤 国嗣

暑さが去りやらぬ昨今ですが、いかがお過ごしでしょうか。日頃より当会の活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。初めに、令和２年７月豪雨では九州地方を中心に、甚大な被害がございました。被災された皆様へお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈りいたします。

さて、2020 年は COVIT-19 の猛威により、大変な情勢となっています。感染者数は一時期に比べると減少傾向ではありますが、今なお首都圏を中心に感染者は発生しており、お亡くなりになられた方も大勢います。心よりご冥福をお祈りするとともに、ご遺族におかれましてはお悔やみ申し上げます。この感染症は多数が軽症のまま寛解しますが、急速に重度化する症例がしばしばみられています。このスピードに対処が追い付かず命を落としてしまう場合もあり、それこそが最も脅威となる部分です。多くは接触感染や飛沫感染が主とされていることから、これらの感染対策に日々翻弄されていることと存じます。

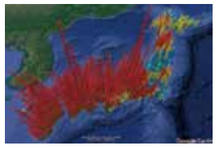
COVIT-19 は通所リハビリテーションを始めとする通所系サービスにも甚大な影響を及ぼしました。感染予防の対策に講じる経費の増加に加え、密を避けるための営業自粛や規模縮小、さらには利用者の自主的な利用キャンセル等が重なり、通所系サービスは存続の危機に面しているといっても過言ではない状況が続いています。皆様におかれましては、大変なご苦労の中営業を続けていらっしゃると思うと、大変胸が痛くなる思いであると同時に、感染予防への対策に厚く御礼申し上げます。COVIT-19 の終息はまだ先が見えておりません。我慢の時期が続きますが、通所リハビリテーションの存続のために当会としても努力を続けていく所存です。なお、通所リハビリテーションに関連する COVIT-19 の情報を当会ホームページに掲載しているため、ご閲覧いただけますと幸いです。

また、当会の事業にも大きな影響がありました。今年度開催を予定していた「第 42 回 全国デイ・ケア研究大会 2020 in 倉敷」の延期は前号でもお伝えした通りですが、それに加えて今年度開講を予定していた「在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース」も次年度に延期する運びとなりました。感染拡大防止に努めながらの方法を模索し続けていたところではございますが、この決定に何卒ご理解いただけますと幸いです。受講をご希望されていた皆様におかれましては、心よりお詫び申し上げます。次年度の開講に向けて、十二分な準備を整えてまいります。

一方、新たな取り組みも検討しています。それは、主催研修会のオンライン開催です。研修認定委員会を中心に検討を続けているところですが、これまで実施してきた研修会をオンラインにて開催する方向で進めています。遠方のため参加を断念されていた方も受講しやすくなるでしょう。入門編研修から経営に関する研修、リハマネ研修等様々な企画をご用意しておりますため、是非ともご参加をご検討ください。

末筆ではございますが、この難局を会員の皆様とともに乗り越えたく、協会運営により一層努めてまいります。今後とも皆様のご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和２年７月豪雨に被災された皆様へ



令和２年７月３日から９日にかけて、梅雨前線が停滞した影響により、記録的な豪雨に見舞われました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました方々に心よりお見舞いを申し上げます。

被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

※被害状況の詳細は下記をご参照ください（内閣府 HP）。
http://www.bousai.go.jp/updates/#r2

２区分上位の報酬算定に対する説明書等のサンプル、JADC Web にてダウンロード可能に

厚生労働省通達（6/1）により、通所系サービスにおいて２区分上位の報酬を算定することが可能となりました。そこで当会では利用者様への説明書や同意書等のサンプルを作成し JADC のホームページより利用者様への説明書や同意書等のサンプルを作成しダウンロードをできるようにいたしました。本サンプルは全国老人福祉施設協議会様にて作成されたモデルを参考に作成しています。

当該通達は感染拡大防止に配慮しながらのサービス提供の継続に向けた取り組みを進めていく観点から発出された通達です。

本サンプルが算定に対しての一助となりますことを切に願います。

↑ダウンロード URL

■ 在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース開講延期

当会では今年度より、あらゆるケースに対しオールラウンダーに対応可能な在宅リハビリテーションマスターを育成し、生活期（在宅）リハビリテーションの質の向上に寄与することを目的として「在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース」を開講いたしたく準備を進めてまいりました。しかし、COVIT-19 の感染拡大の情勢を鑑み、皆様の健康と安全に配慮した結果、今年度の開講を断念し、次年度に延期するという決定に至りました。既に参加をご希望されていた皆様、参加をご検討されていた皆様、また講師の皆様におかれましては、このような決定になりましたことを、心よりお詫び申し上げます。ご迷惑をおかけいたしますが、事情をご賢察いただき、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

■ 新たな研修会のカタチ 。Web 研修会 への切り替え

今年度は COVID-19 の影響により、既にご案内していた研修が予定通り開催されず、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。「新しい生活様式」が提唱される中で、研修会のあり方について委員会で検討を重ねた結果、予定していた研修会はすべて Web を活用した研修会に切り替えることにいたしました。

また当会の研修は、参加者同士のディスカッションも重要な機会と考え開催してきましたので、Web 研修においても、このディスカッションの時間をできるだけ確保できるよう計画しています。

旅費が不要となり手軽に参加ができること、子育て中の方でもご自宅から参加できるなど、Web 研修ならではのメリットがたくさんありますので、これまで二の足を踏まれていた方も、この機会に研修会に参加してみませんか？
詳細は適宜ホームページに掲載してまいります。

この「新たな研修様式」での研修会に、多くの方がご参加されることを心待ちにしております。

↑研修情報と申し込み

JADC EVENT SCHEDULE

開催日		研修会	開催地・開催方法
9月	①9日（水）＋11日（金）*1	リハマネジメント研修会	Zoom によるオンライン開催
	②12日（土）*2	リハマネジメント研修会	Zoom によるオンライン開催
	13日（日）	状態・疾患別プログラム研修会	Zoom によるオンライン開催
	26日（土）～27日（日）*3	生活行為向上リハビリテーション研修会	Zoom によるオンライン開催
10月	24日（土）～25日（日）*4	生活行為向上リハビリテーション研修会	Zoom によるオンライン開催
11月	14日（土）～15日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	Zoom によるオンライン開催
	未定	明日から使える！初めての通所リハ実践研修会	Zoom によるオンライン開催
1月	未定	経営戦略セミナー	Zoom によるオンライン開催
2月	19（土）～20（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会 in 東京	未定
3月	19（金）	介護報酬改定セミナー	未定
	20日（土）	第８回デイ・ケアスキルアップセミナー（東京）	未定

*1、*2は、同一内容となります。*3、*4定員満了のため申し込み終了しました。

JADC の礎石 若月健一氏 ご逝去

昭和 16 年 9 月 10 日	東京で生まれる
昭和 20 年 3 月	長野県臼田に移住
昭和 43 年 3 月	日本社会事業大学付属日本社会事業学校研究科 卒業
昭和 43 年 4 月	JA 長野厚生連佐久総合病院に入職
平成 2 年 4 月	佐久総合病院老人保健施設科長
平成 3 年 4 月	長野県老人保健施設協議会設立 会長代行
平成 3 年 9 月	全国在宅介護支援センター協議会 委員
平成 6 年 4 月	佐久総合病院老人保健施設管理者（施設長）
平成 7 年 4 月	長野県サービス評価委員会老人保健施設部 会長
平成 7 年 4 月	長野県老人保健施設協議会 会長
平成 9 年 4 月	社団法人（現公益社団法人）全国老人保健施設協会 副会長
平成 9 年 4 月	全国老人デイ・ケア連絡協議会 副会長
平成 11 年 10 月	第 10 回全国老人保健施設長野大会 大会長
平成 12 年 6 月	社団法人（現公益社団法人）全国介護福祉士会 理事
平成 18 年 6 月	第 14 回全国老人デイ・ケア軽井沢研究大会 大会長
平成 19 年 3 月	JA 長野厚生連佐久総合病院 退会
平成 20 年 3 月	佐久総合病院映画部 農村医療の映像記録保存会 代表
令和元年 7 月	第 41 回 農協人文化賞 受賞
令和 2 年 5 月 5 日	逝去（満 78 歳）

老健施設開設当初は、介護が国家資格化されていない時代で、高齢者ケアとは何か暗中模索の状況である中、職員と共にケアの専門性と地位向上に努めてきたリーダーでありました。全国老人保健施設協会理事に就任されてからは朝から夜中まで原稿と睨み合う研鑽の毎日で、自身の信念を形にするために過ごされました。

平成６年に現在の全国デイ・ケア協会の前身である連絡協議会が発足しました。全老健初代会長であった矢内伸夫先生、現 JADC 名誉会長である斉藤正身先生をはじめとする発起人の一人として若月先生も名前を連ねられました。当時若月先生は全老健の役員も務めていらっしゃったこともあり、全老健との協力体制を組み、当協会が全国の団体として機能していくうえで多大なお役割を果たされてきました。当時デイケアは、病院、診療所、老健施設と様々な形態で行われていたため、現在の地域における中核サービスとしてのデイケアの礎を構築されたといえます。

座右の銘を「人心から学ぶ」とし、当時より「住民は…」と言葉にされており、常に「生活者の視点」として、デイケアを利用する人達の「生活場面を見ることの大切さ」とのお考えを強くお持ちでした。そのお考えは、全国規模のフォーラムが各地で開催されたときに「利用者家族を招いて、声を聴こうじゃないか」という先生のご発案から当時斬新な企画を行っていらっしゃっていました。

多くは医師の集まりの中で、お一人福祉畑の若月先生が堂々とご発言されていたことは、多くの方々に、我々専門職が地域の生活を守るために多職種の協働が必要であることを示されました。

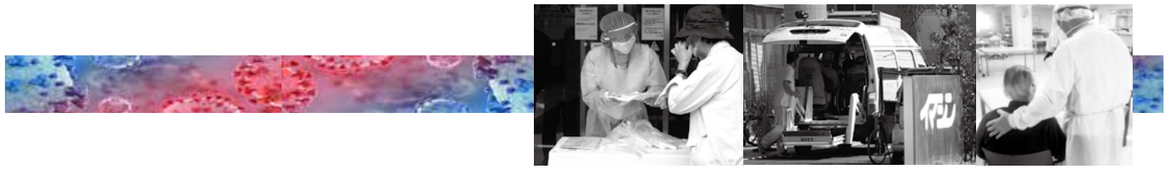
◇◇◇

みんなどーしてる？

COVID-19。 施設の対応緊急アンケート

克服か共存か。おさまる気配がない COVID-19 は、私たちの生活に様々な課題を投げかけてきています。デイケア施設においてもそれは同じ。皆さんどのように対応なさっているのか規模、タイプが異なる施設に訊いてみました。

Q1. 感染予防対策で最も困ったことを教えてください。
Q2. Q1 についての対応について教えてください。
Q2. 今後検討している新たな取り組みがあれば教えてください。



短時間のサービス提供に注目して
スマイル永生（医療法人社団 永生会）の場合

Q 1

スマイル永生は１時間以上２時間未満の短時間クラス（４クラス / 日）と３時間以上４時間未満の半日クラス（２クラス / 日）を併せ持つ診療所併設の通所リハである。

当施設の感染予防対策は診療所の予防対策と密接に関わっており、主に以下の３点が困ったこととして挙げられる。

①全外来患者様の検温および手指消毒などの対応に人員をあてたこと。

②同時期にコロナで通所をお休みされた利用者に訪問でサービス提供を行っていたこと。

③既存利用者に対しても通所前の検温や手指消毒、検温時の利用者との距離間や検温の精度、微熱があった場合の判断、利用時間中もプログラム実施毎の物品消毒を実施したこと。

これらのことにより、利用者と職員のコミュニケーション量が減り、結果サービスの質が低下していたことへの懸念が考えられる。目に見えないものではあったがコロナストレスも甚大であった。

当然ではありますが、ご利用の差し控えも目立ち、2020 年１月比で４月、５月ともに３割程度の利用減であった。

Q 2

①外来患者の検温対応などは当初複数名での対応を行っていた。そこで対応すべきチェックリストを作成し、チェック項目をクリアした職員は１名対応を可とすることにより、最小人数で感染予防再作画が可能な形を作った。

②通所の訪問への置き換えは４月に比べ５月に希望者が増加した。そのため職員の移動を通所の送迎運転手が行うことで、移動時間の短縮を図った。

③通所前の検温は、冬は非接触型体温計が作動しなかったため、腋窩測定式にて実施。利用者に事前に測定しておいてもらい、体温計を目視することで発熱がないことを確認もした。また、37.5℃前後の発熱が続いている利用者に対しては主治医と連携をとり、通所の可否についての基準を指示してもらった。
プログラム毎の物品消毒については時間割で対応職員を割り振ることで、職員個々がまとまった時間を確保できるよう配慮し、利用者へのサービス提供が行えるようにした。

Q 3

第２波に備え、送迎車のシートを防水シートに張り替えることで、車内消毒を容易にするよう検討している。また、再開利用者が増え、施設内が密な状態になることが想定されているため、アクリルボードを利用者間に設置し飛沫感染予防を行う。

さらに、良好な換気状態を確保するため CO2 濃度測定器を導入し換気への工夫を検討している。また、換気に伴い夏場は熱中症も懸念し、冷風機の導入も併せて検討する。

大規模な事業所運営に注目して
介護老人保健施設 清雅苑（社会医療法人 寿量会）の場合

Q 1

①140 名定員の大規模事業所であるため、食事、入浴、送迎場面での密な環境ができやすい。また同一法人の病院と 1,400㎡のリハセンターを共有で利用しているため、不特定多数の方との接触の機会が多くなる。

②スタッフおよび登録者数は約 350 名の同居ご家族の健康状態や感染者との接触、海外渡航歴、感染者多数発生地域からの帰省、旅行、出張などの把握とサービス利用の対応。

Q 2

①リハセンターは通所利用者のみに利用を制限し、機器は使用前に毎回ルビスタで拭き上げ。移動範囲もゾーニング実施。食事は対面にならないようテーブルの配置を変更し、テーブルにアクリル板設置。食事以外は利用者も全員マスク着用お願いする。換気は１時間おきに 10 分間実施。入浴は週３回を週２回に制限し、可能な利用者は自宅での入浴方法を再指導。脱衣所は間隔をあける。介護者もマスク、ゴーグル着用。送迎は、利用者による健康チェック、検温に加え、乗車前、施設到着時と３回実施、送迎車両は１便ごとに拭き上げ実施。外部講師のカルチャーは中止（6 月まで）。

②利用者・家族にこまめに文書を配布し、施設の対応状況の報告に加え、同居家族の状況についてご連絡をしていただく項目をあげ、感染リスクが極めて高い方との接触がある場合は、一定期間利用の制限をお願いする。スタッフの勤務制限はより厳しい条件で実施。

Q 3

第２波への備えと、現状の制限を徐々に解除していくプロセスと基準を検討中。

認知症の利用者対応に注目して
介護老人保健施設 鴻池荘（医療法人 鴻池会）の場合

Q 1

①他利用者との距離が取れず、近づきすぎてしまう。そのことで認知症高齢者以外の利用者が不安になることが予測された。

②マスクを着用されない。マスクを正しくつけられない。マスクの管理ができない。

③換気の必要性が伝わらず、感情的になる利用者がいる。

④職員がマスクを着けていることで、利用者には表情が見えず、声も聞こえにくく、ケア時の誘導が伝わりにくい。

⑤認知症高齢者はもともと体調の自己管理ができず、職員の細やかな観察で体調変化を把握するよう心がけているが、マスクにより表情が見えず、体調悪化の発見が遅れる不安がある。

Q 2

①認知症利用者は１ユニットで対応し、他の利用者との接触を減らした。テーブルやソファーの位置などの環境を工夫することで、利用者間の距離を保った。

②マスク着用について、利用者へ何度も同じような促しをすることで、苛立ちを示す方もおられたが、マスクの正しいつけ方や人と人との距離など、ポスターの掲示を行い、イラストで伝わるように工夫することで、理解のしやすさにつながった。

③換気については利用者のスケジュールと換気時間を合わせて管理し、換気時間に入浴やレクリエーションなどで利用者が空間を離れるようなスケジュール調整を行った。

④コミュニケーションでは普段より視線を合わせ、ジェスチャーなどを大きく行うなど工夫して、対応している。また筆談・補聴器・集音機などの利用により、伝わりやすい工夫を個別に対応したことで誘導等が改善し、心地よくケアに応じていただけている。

⑤検温・体調チェックの頻度を増やし、体調把握に努めている。

Q 3

認知症高齢者の利用者特性として、在宅支援においてはレスパイト目的を踏まえている方が多く、利用自粛を案内したい際には、ご家族から自宅での対応が難しいとのご相談をいただいた。今後、第２波に向けて、在宅支援として様々なサービスの選択肢を持ち得ていることが重要で、外出できない事態が生じた際には必要なサービスが提案していけるよう、CM と密に情報共有していきたい。

重度者の利用者対応に注目して
通所リハビリテーションデイリビング（医療法人 真正会）の場合

Q 1

朝の検温では平熱であったが、長時間滞在の中で発熱した方への対応。もともと医療度も高く、病状不安定な方も多く利用されているため、利用中に発熱症状がみられることもあり、発熱の原因として新型コロナウイルスも疑われ、判断に困った。

Q 2

発熱が発覚した時点で他の利用者から距離がとれるベッドに誘導。移乗や経過観察するスタッフは１名と決め、通常のマスク着用に加え、ガウン、手袋を着用。基本的にはご家族のお迎えにて早退していただいた。しかし、発熱の原因をはっきりさせるための受診をおすすめするが、かかりつけ医を含め発熱している状況では受診をお断りされることも多く、最寄りの保健所、新型コロナウイルス県民サポートセンターに連絡をとり、病状を説明。一般の医療機関での受診について指示をいただき、その上で受診につなげた。

利用中の発熱者への対応として他の利用者から距離がとれるベッドへの誘導は継続。　その場合、ゾーニングの意味も含め部屋の入口に赤い札を掛け、早急なスタッフへの周知とした。

Q 3

当事業所は大規模事業所であり、事業所内スタッフ間でタイムリーに情報共有することで感染予防につながると考え、インカムの使用を施行中。情報共有により感染予防だけでなく、ケアマネジャーや他事業所への連絡をより迅速に行えると考える。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、老健のデイケアや病院・診療所のデイケア等、全国様々あるデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として開設、20 年にわたり活動を続けてまいりました。

現在当会は介護報酬改定における通所リハビリテーションの窓口を担い、報酬改定時においてはリハビリテーションマネジメントと通所リハビリテーションの意義を問い、加算として位置づけ、質に関わる根幹を表現してまいりました。

また、重度者に対してもより手厚いケアが提供できるサービスとして、地域でのリハビリテーション資源として重要であることを明確にしてまいりました。生活行為向上リハビリテーションの普及については特に、厚生労働省および各種団体との連携役とし、研修や企画に参画し現在に至ります。

これも一重に、会員施設の皆様から頂いた多くのご意見や、ご協力の賜物でございます。

ついては、今後一層地域でのデイ・ケアの役割を全うするために、協会としてより多くの「声」を賜りたく、皆様のお力をお貸しください。

より一層、通所リハビリテーションが地域に必要とされ地域生活の中核を担うサービスとなるために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員特典

Join Us

◎ **当会主催研修会、研究大会を会員価格にて参加可能**
・全国デイ・ケア研究大会、リハビリテーション・ケア合同研究大会　・主催研修会
※オンライン開催の研修会も多数企画していきます

◎ **「デイケアニュース」の定期発送**
・年２～３回発行しております。
各種研修会情報、協会の活動報告、トピックス、会員施設紹介などご提供しています。

◎ **制度関連や現場で困っていること等の問い合わせが可能**
・原則、会員様のみご対応させていただいています。

◎ **会員ページの閲覧が可能**
・各種資料のダウンロード、研究大会抄録集、当会実施アンケート結果などの閲覧が可能です。
今後さらなるリニューアルを検討しています。

◎ **会員への定期的なメール配信**
・研修会案内
・制度関連情報　等

※正会員（事業所）の職員は全員上記特典の対象となります。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 14 番地千代田寿ビル３階
TEL：03（5207）2710　FAX：03（5207）2711
E-mail：info@day-care.jp　URL：www.day-care.jp

編集後記

今回若月先生の追悼に関しては、私も初めてお会いした時「若いんだからがんばんなさいよ」と満面の笑みでご挨拶を頂いたことが忘れられません。現在 COVID-19 による国難が継続している状況は変わりません。しかし近藤会長の話を含め協会の会員の方々、この国難の中でも工夫してサービスを継続していることなどが発信されております。感染症への答えは１つだけではないし、正しくないこともあるかもしれませんが、若月先生から『とにかくがんばんなさいよ』と背中を押してもらっているように感じます。ぜひともご一読下さい。ちなみに当事業所ではガラス越しではありますが感染対策を徹底しつつ細々と面会を行っており、利用者、家族の素敵な表情を見て励まされています。

多良 淳二（JADC 理事）
介護老人保健施設イマジン リハビリ科 係長

デイケアニュース 11号　2020年9月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会